

北海道新聞

2017年

3月3日

金曜日

—ITで医療と介護

「患者情報共有を」

討論会で事例紹介

医療と介護の現場を結ぶ情報通信技術（IT）について考えるパネル討論会が2日、札幌市北区の北海道大学で開かれた。高橋病院（函館市）の高橋肇理事長がITの活用について「患者の変化を医療と介護の現場で情報共有でき、リハビリに生かせる。患者の生活の質の向上につながる」と利点を解説した。

ITの医療分野などへの

医療と介護の現場を結ぶ情報通信技術について話し合ったパネル討論会



利用促進を目指すNPO法人「北海道地域ネットワーク協議会」（会長・辰巳治之札幌大教授）の主催。市民やIT企業の担当者ら約

70人が参加した。

高橋氏は患者や家族がスマートフォンなどを使い、日ごろから歩行や排せつの状態を記録する同病院独自のシステムについて紹介。

「医療や介護の現場で共有することで、退院後の機能回復の目安にできる」と説明した。

討論会には砂川市立病院の職員ら7人が登壇。十勝医師会の栗林秀樹会長もビデオで出演し、患者の情報を複数の医療機関で共有する十勝医師会のシステムを紹介した。